

医学教育研究助成（令和2～3年度）

「遺伝医療・ゲノム医療」理解促進のための医学教育プログラムの開発と普及に関する研究

Development and dissemination of medical education programs to promote understanding of "genetic medicine / genomic medicine"

研究代表者の所属大学・部署名：東北大學 東北メディカル・メガバンク機構
役職名：准教授 氏名：小林 朋子

研究期間

令和2年4月1日～令和4年3月31日

研究の概要

【研究目的】

卒前医学教育において修得すべき基本的事項をまとめた教育内容ガイドラインとして「医学教育モデル・コア・カリキュラム」が示されており、平成28年度改訂版より「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」が追加されたが、各大学医学部での教育内容の標準化はこれからの課題である。本研究では「遺伝医療・ゲノム医療」の教育内容を標準化するために貢献できる教育プログラムを作ることを目的とする。

【研究活動報告】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生したことに伴い、医学部医学科での講義スケジュールが不安定だったことから、「遺伝医療・ゲノム医療」理解促進のための医学教育プログラムの制作に専念した。併行して、全国の大学医学部医学科 計83校（国立大学43校、公立大学8校、私立大学32校）のシラバスを調査し、「医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改訂版」で追加された「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」について扱われている単元について検索した。その結果、1～2年生の基礎系の単元（分子遺伝学、腫瘍学など）の中で分散して講義されている場合と3～4年生の臨床系の単元（臨床遺伝学、先端医学など）としてまとめて講義されている場合があることがわかった。また、「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」の扱われ方に、国立と公立と私立大学の各々で似通った傾向があるように感じられた。そこで、国立大学2校（東北大學、信州大学）、公立大学1校（福島県立医科

大学）、私立大学1校（金沢医科大学）で今回開発した医学教育プログラムの講義を実践することを計画した。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症流行が鎮静化傾向にあった2021年夏から秋にかけて、研究代表者の小林朋子が4大学の医学部医学科1～2年生に、今回開発した医学教育プログラムの講義スライドを用いて「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」の講義を実践した。その結果、いずれの大学での受講生においても、映像資材「知ること、知らないこと～遺伝子を調べることで生じることとは？～」で伝えようとしている「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」学修目標④の遺伝情報の特性（不变性、予見性、共有性）と学修目標②の家系図の作成において、一律に理解度が高まっていることがわかった。また、本講義前の「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」に対する習熟度は各々の大学で異なっているように思われたが、事前の自己評価に影響されずに、本講義によって「E-1 遺伝医療・ゲノム医療」に関する一定の知識を得られている傾向が認められた。

